

	一般的名称	報告の概要
174	ホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者126例を対象とした術前化学療法(CTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸)と術前化学放射線併用療法(CRTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸/エトポシド/放射線)を比較するランダム化PhaseⅢ試験において、手術後にCTX群で5例、CRTX群で5例が死亡した。
175	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者197例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン時間調節療法(chronoFLOレジメン)とイリノテカンとの併用療法を検討するランダム化試験において、3例が死亡した。
176	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者627例を対象としたセカンドライン治療としてのカペシタビン/オキサリプラチン(XELOX)とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン(FOLFOX4)を比較したPhaseⅢ試験において、60日間の全死亡率がXELOXで3.9%、FOLFOX4で4.2%であった。
177	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	妊娠中の母体への硫酸マグネシウムの投与により、超低出生体重児の動脈管開存症発症のリスクが高まることが示唆された。
178	ホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/葉酸(FUFOX)併用療法のPhaseⅡ試験において、過敏症反応と敗血症性下痢症で2例が死亡した。
179	アセトアミノフェン	高濃度のアセトアミノフェン溶液内でヒトリンパ球を単離培養したところ、染色体異常誘発活性の起こることが示唆された。
180	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の初回使用時の年齢が早い場合、若年齢での乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
181	メトレキサート	小児、青年期におけるハイリスク中枢神経系B細胞リンパ腫患者296例を対象としたFAB/LMB療法、または強化低下療法の無作為化比較試験において、死亡が認められた。
182	エストラジオール	閉経後ホルモンの使用により、全身性エリテマトーデス(SLE)の発症リスクが高まることが示唆された。
183	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン(CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhaseⅢ試験において、両群で各3例死亡した。
184	ホリナートカルシウム	転移性結腸癌患者を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン/panitumumab併用療法を検討したPhaseⅡ試験において、麻痺性イレウスにより1例が死亡した。
185	ホリナートカルシウム	転移性胃癌患者31例を対象としたドセタキセル/シスプラチン/葉酸/フルオロウラシル併用療法のPhaseⅡ試験において、腸穿孔と敗血症により2例が死亡した。
186	エストロゲン[結合型]	ホルモン補充療法(HRT)は、卵巣癌の発症リスク及び卵巣癌の死亡リスクを高めることが示唆された。
187	アモキシシリン	ヒト胃癌細胞を用いたin vitro試験において、アモキシシリン投与が細胞内活性酸素種を誘導し、DNAを損傷させることが示唆された。
188	塩酸セルトラリン	冠動脈性心疾患の既往のないうつ病性障害の患者にSSRIを投与したところ、健常人と比較して心臓圧反射機能と心拍変動が低下し、脈圧、高感度C反応性タンパク(hsCRP)が上昇したことから、心疾患発症リスクを高めることが示唆された。
189	インターフェロン ベーター1a(遺伝子組換え)	一医療機関において多発性硬化症と診断された患者113例を調査したところ、長大な脊髄病巣を有する抗アクアポリン4抗体陽性患者では、インターフェロンβの効果が少ないことが示唆された。
190	シンバスタチン	健康成人12人において、塩酸アミオダロン投与後にシンバスタチンを投与すると、シンバスタチンのAUC、Cmax、t1/2が上昇した。